

ヤママユガ科 Saturniidae

20. クスサン 21. ヤママユガ 22. シンジュサン *Philosamia cynthia pryeri* BUTLER 1960年場内クリ園に発生した。その後、誘蛾灯によく飛来しているが、クリを食害しているのをみない。標本は1960年5月12日と6月中旬に採集。

シャクガ科 Geometridae

23. オオトビスジエダシャク 24. ヨモギエダシャク 25. ナカウスエダシャク 26. ウサアオエダシャク 27. キマエアオシャク 28. クロスジアオシャク

スズメガ科 Sphingidae

29. クチバズメ

ドクガ科 Lymantridae

30. ドクガ 31. モンシロドクガ *Euproctis similis* FUESSLY 1965年場内に発生、5月下旬より営繕をはじめ6月中旬に羽化。誘蛾灯にもよく飛来し、7月1日と30日、8月上中旬に採集している。
32. カシワマイマイ 33. マイマイガ

ヤガ科 Noctuidae

34. ゴマケンモン

III 鞘翅目 COLEOPTERA

タマムシ科 Buprestidae

35. クリタマムシ

ハムシ科 Chrysomelidae

36. バラルリツツハムシ 37. カサハラハムシ *Demotina modesta* BALY 6月~10月、重なりあった樹葉間に普通。 38. カタビロトゲトゲ

カミキリムシ科 Cerambycidae

39. ミヤマカミキリ 40. シロスジカミキリ 41. アトモンサビカミキリ 42. ヨツボシカミキリ このほか背振村鹿路では樹葉上よりキマダラカミキリとオスジハナカミキリも採集した。

オトシブミ科 Attelabidae

43. ゴマダラオトシブミ 44. オトシブミ 45. ヒメクロオトシブミ

ゾウムシ科 Curculionidae

46. カシワクチブトゾウムシ 47. カシアシナガゾウムシ 48. クリシギゾウムシ

キクイムシ科 Ipidae

49. ツツミキクイムシ *Xyletrus amputatus* BLANDFORD 50. ハンノキキクイムシ 51. サクセスキクイムシ

コガネムシ科 Scarabaeidae

52. アカビロウドコガネ 53. オオコフキコガネ 54. サツマコフキコガネ 55. マメコガネ 56. コイチャコガネ (チャイロコガネ) 57. コガネムシ 58. スジコガネ 59. アオドウガネ 60. ドウガネブイブイ 61. ヒメコガネ 62. ハンノヒメコガネ 63. サクラコガネ 64. クロハナムグリ 65. コアオハナムグリ このほかヒメサクラコガネ、クロコガネも樹葉上より採集している。

IV 膜翅目 HYMENOPTERA

タマバチ科 Cynipidae

66. クリタマバチ

28. キクラゲの栽培試験について (第1報)

大分県林業試験場 手 嶋 平 雄

試験の目的

県下の椎茸生産は近年急速に進展して、これに伴う原木は欠乏の一途をたどり、その資材の供給はすでに他県に進出している現状である。

しかるにキクラゲに必要な原木は適用樹種の範囲が他に比し広く、中には特に生長の早い木もある。未

だ利用資材においては適当樹種が割合に多いので、これらの樹種を用いてキクラゲの栽培を行い、適用樹種の開発並に栽培技術及品質の向上によって企業性の有無を確かめ栽培の福利を増進するものである。

栽培要領

原木伐採年月日 38.12.25 樹種 ぼぶら
" 39. 1.11 " にれ外7種

キ ク ラ ゲ 生 量 調 査 表 採取期間(昭和39年度 39.9.10~39.10.31) 昭和40年度 40.5.11~40.9.21)

年度別	樹種	原木の長さ	平均直径	植付本数	発生原木本数	未発生原木本数	植付本数に対する発生原木割合	原木		原木重量に対する発生量(生重)の率	歩止	原木重量10kg当りの発生量		備考		
								重量	材積			生	乾		生	乾
昭和39年度 40年度 計	にれ	30	10.8	12	12	0	100	42.3	0.0430	514	0.012	145	34	11,953	3,372	9月2回 計7回
		30	10.8	12	12	0	100	"	"	1,548	0.037	369	87	36,000	8,581	5月4回 6月4回 8月2回 9月1回 7月2回 計13回
昭和39年度 40年度 計	むく	30	11.2	16	14	2	87	60.1	0.0625	233	0.004	45	7	3,728	720	9月2回 10月3回 計5回
		30	11.2	16	15	1	94	"	"	1,327	0.022	329	55	21,232	5,264	5月4回 6月4回 7月1回 8月2回 9月1回 計12回
昭和39年度 40年度 計	にわとこ	30	10.5	8	6	2	25	23.7	0.0266	126	0.005	29	53	12,473	1,092	9月1回 10月5回 計6回
		30	10.5	8	8	0	100	"	"	2,324	0.098	500	22	87,368	18,790	5月4回 6月4回 7月1回 8月2回 9月1回 計16回
昭和39年度 40年度 計	ねむのき	30	10.3	12	10	2	80	32.8	0.0386	220	0.007	61	67	18,569	1,583	9月2回 10月4回 計6回
		30	10.3	12	11	1	92	"	"	324	0.0098	81	25	8,393	2,098	5月1回 6月3回 7月1回 8月1回 9月1回 計5回
昭和39年度 40年度 計	えごのき	30	10.2	4	3	1	75	11.2	0.0126	151	0.013	36	24	11,984	2,873	9月2回 10月4回 計6回
		30	10.2	4	1	3	25	"	"	174	0.016	33	19	15,529	12,690	2,619
昭和39年度 40年度 計	みづき	30	11.0	20	20	0	100	75.7	0.0739	614	0.008	163	81	22,205	2,205	9月2回 10月4回 計6回
		30	11.0	20	16	4	80	"	"	989	0.013	233	24	13,382	3,152	5月4回 6月4回 7月2回 8月4回 9月1回 計15回
昭和39年度 40年度 計	さくら	30	11.9	8	8	0	100	32.0	0.0347	370	0.012	102	28	10,662	2,939	9月2回 10月5回 計7回
		30	11.9	8	2	6	25	"	"	38	0.0012	5	13	1,095	144	5月1回 6月1回 6月1回 計2回
昭和39年度 40年度 計	あかめがしわ	30	10.8	24	10	14	42	65.4	0.0846	410	0.006	96	63	15,846	1,349	9月2回 10月4回 計6回
		30	10.8	24	24	0	100	"	"	3,432	0.052	836	24	524	127	40,567
昭和39年度 40年度 計	ぼぶら	100	6.7	10	10	0	100	35.7	0.0461	1,271	0.036	386	30	27,575	8,373	9月3回 10月4回 計7回
		100	6.7	10	10	0	100	"	"	326	0.0091	86	26	7,071	1,865	5月4回 6月2回 7月1回 8月1回 9月1回 計8回
昭和39年度 40年度 計	ぼぶら	25	8.6	16	16	0	100	20.4	0.0296	70	0.003	9	34	4,365	305	9月1回 10月2回 計3回
		25	8.6	16	16	0	100	"	"	329	0.016	124	38	11,114	4,189	5月5回 6月2回 7月1回 8月1回 9月2回 計9回
昭和39年度 40年度 計	ぼぶら	25	8.6	16	16	0	100	"	"	399	0.019	133	33	13,479	4,494	5月5回 6月2回 7月1回 8月1回 9月2回 計9回
		25	8.6	16	16	0	100	"	"	399	0.019	133	33	13,479	4,494	5月5回 6月2回 7月1回 8月1回 9月2回 計9回

玉切年月日	39. 1.10	樹種	ほぶら
"	39. 1.21	"	にれ 外7種
原木重量 測定年月日	39. 1.10	"	ほぶら
	39. 2. 7	"	にれ 外7種
種駒植付年月日	39. 1.25	"	ほぶら
"	39. 2.12	"	にれ 外7種
伏込又は 埋立年月日	39. 1.13	"	ほぶら
"	39. 2.13	"	にれ 外7種

試験地(ほた場)

場所 大分県日田市田島町試験場構内
 林地況 樹種スギ、林分16年、庇陰度0.7標高100m、
 方位東南 傾斜平坦地

供試材料

原木 樹種 にれ、むく、にわたこ、ねむのき、え
 どのき、みづき、さくら、あかめがし
 わ、ほぶら
 樹令 にれ外7種 14~19年生
 ほぶら 6年生
 太さ 末口直径10.2~11.9cm×長さ0.3cm

種駒(アラゲキクラゲ) 楔型

種駒植付数 長さ 0.25~0.3m 6個
 長さ 1.0m 10個

伏込又は埋立の方法

長さ0.3mの原木は5cm内外地面に埋め立て新聞紙
 で全面を覆い、走り子の発生をまって覆いを取り除い
 た。長さ0.25mの分は原木の長さほどの溝を掘り、そ
 の中に立て込み、その上に粗朶をあげて、日陰を調節
 した。長さ1.0mの分は地面に低く寝せ込み、その上
 に粗朶をあげて日陰を調節した。

茸の発生

初年度は種駒を植付てから6ヶ月目位で発生し、次
 年度は4月3日に発生を認めた。

考察及結果

植付けた原木の処理は地面に埋め立て全面を新聞紙
 等で包む方が菌紙の繁殖に良いように観察された。
 キクラゲは発生が早く連続的である。
 ほぶら、みづき、さくら、等は一時に発生したが、
 次年度は割合に発生しなかった。
 にわたこ、にれ、あかめがしわ等は初年度に少く、
 次年度は特に発生が多く、収量は増加した。

29. 蒸気消毒したホダ木の害菌発生について

林業試験場九州支場 堂 園 安 生

シイタケ栽培上もっとも重要なことの一つは、ホダ
 木に発生する害菌の防除であるといわれている。そこ
 でこの害菌防除法を究明するための基礎資料の一つと
 して、ホダ木消毒による害菌の発生経過をしらべた。
 なおこの試験は林業試験場宮崎分場で実施したもので
 あり、ご指導いただいた菌類研究室長温永竹則技官な
 らびに安藤正武技官、試験に助力された日高忠利技官
 に対して感謝の意を表します。

材料および方法

コナラ原木を50cmの長さに玉切り、オートクレーブ
 を用いて100°Cで1時間蒸気消毒を行った。試験には
 対照として無処理のもの16本、蒸気殺菌したもの16本

計32本を使用した。さらに処理16本中の8本と無処理
 16本中の8本に対してシイタケ種菌を接種し比較検討
 を行った。種菌の接種は昭和39年3月10日である。調
 査は4月より10月まで毎月1回定期的に行い、ホダ木
 の表面にあらわれた害菌子実体をしらべた。ホダ場は
 林業試験場宮崎分場構内の樹令約40年生のヒノキ平地
 林内である。管理は伏せ込んだまゝで特別の管理は行
 っていない。

結果および考察

第1表に示す通り消毒したホダ木は無処理のホダ木
 に比べて害菌(子実体)の発生は3ヶ月おくられている。
 これは害菌の胞子あるいは菌糸が無処理のホダ木に生